



後藤 敦史
大阪観光大学
国際交流学部
専任講師

今から160年ほど前、アメリカ海軍の士官アレクサンダー・ハーバーシヤムという人

知的好奇心は、教育によって支えられていたともいえるでしょう。江戸時代の多くの人々は、寺子屋で「読み・書き・そろばん」という実用的な知識を学んでいました。ハーバーシヤムが来日した1855年には全国に4200近くの寺子屋があったといわれています。うな「学習者のための教育」です。少人数教育のメリットを最大限に活かし、学生一人ひとりに寄り添った教育、つまり「現代の寺子屋」を教員全員が目指しています。そして、ひとりでも多くの知的好奇心旺盛な学生に出会いたい。これが教員全員の願いなのです。

“現代の寺子屋”を教員全員が目指す

寺子屋での学習の特質とは、

物が開国直後の日本を訪れています。ハーバ

「教える側」と「教わる側」の距離の近さです。学習者のそれぞれの学習の進み具合に

例えば、彼が下田で日本人たちにマッチの仕組みを教えていると、「女性も、子供も、犬も、皆が皆」犬も例外ではない、「何の騒ぎだ」と興味を示して「集まってきたとい



学生との距離が近い

このような日本人の教育も、まさにこのよ

大阪観光大学 観光学部・国際交流学部

(併設校：明浄学院高等学校)

〒590-0493 大阪府泉南郡熊取町大久保南5-3-1

TEL. 072-453-8222 <http://www.tourism.ac.jp>

国際交流学部(CSJ)コラム連載中!

<http://www.tourism.ac.jp/csi/blog>